板野西小校長室だより

子ども 保護者 地域が 輝く西小に
令和６年１月１１日 板野町板野西小学校

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。
さて，１７日間の冬休みでしたが，お子様はどのように年末・年始を過ごしましたでしょうか。学校が始まり，子どもたちの元気な声が響いて，休み時間に遊んでいる姿を見てうれしく思っています。
『一月は行く（往ぬる），二月は逃げる，三月は去る』と言います。この時期は行事が多く，あっという間に過ぎてしまうからです。３学期は，実質２ヶ月あまりの短い期間ですが，締めくくりをしなければならない大切な時期です。目標に向かって，充実した学校生活が送れるように願っています。

３学期の始業式　こんな話をしました

始業式の朝「明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします」と何人かの人がていねいに挨拶をしてくれて，とても気持ちよかったことを話しました。

【災害と向き合う力】

その後，「令和６年能登半島地震・羽田空港の航空機事故」の話から，地震や事故はみんなが大切にしているものを奪うことや当たり前のことができなくなることを伝えました。「みんなは今日学校に来て，友だちと楽しく過ごせますが，被災地ではまだ学校は始まっていません」と続けました。今ある日常は当たり前ではないということです。そして，３学期に避難訓練（地震）はありますが，「心と行動の準備」「命を守るために最善を尽くす」ことなどを再確認しました。

【できないことをやらなくちゃ】

最後に，大谷翔平選手からプレゼントされたグローブを見せながら，「野球を楽しんでほしい」「将来一緒にプレーをしてみたい」という大谷選手の気持ちを伝えて，ある大谷選手の考え方の話をしました。子どもたちは，新しい年を迎えあと３ヶ月で卒業・進級になります。そこで，新しい目標をしっかりともって新しい自分を発見してほしいことを伝えました。そのためには，何をするときでも「むり」とは思わないで挑戦してほしいことも伝えました。つまり，「先入観は可能を不可能にする」ということです。大谷選手は，ＷＢＣの時も同じようなことをチームメートに話したそうです。子どもたちには，「新しい縄跳びの得意な自分」や「初めて１００点をとった自分」など新しい自分と出会うために是非「できないことをやらなくちゃ」と伝えました。

やりきった「自慢」

『子どもへの声かけや見守りなどありがとうございました』

２学期の終業式の時に「冬休みは１７日と短いので何か一つでもいいからやりきった自慢を聞かせてほしい」と希望参加の宿題を出しました。そして，やりきった人には昨年同様，校長先生から賞状を渡しますと添えました。後，「自分から進んで取り組む」「できるだけ毎日一つ以上」（「旅行に行ったよ」とかはＮＧ）ということを付け加えました。

【やりきった自慢】（抜粋）

「お手伝い」（掃除・片付けなど）・・・「ママが喜んで（ほめて）くれた」「きれいになるのは気持ちがいい（スッキリ）」「家の人の有り難さ（大変さ）がわかった」「家族の一員だと実感した」
「運動（なわとび・逆上がり・スポーツなど）」・・・「練習するたびにとべるようになった」「ポカポカあたたかくなった」「さらに好きになった」
「宿題・読書」・・・「といていくのが楽しかった」「最初無理だと思った問題が解けた」「頭の中が物語でいっぱいになった」「主人公になったような気がした」
「ダイエット」・・・「よくかんで食べるようにした」
「料理」・・・「自分で作っておいしかった」「家族が喜んでくれた（いっしょにつくった）」
「自転車練習」・・・「うまく乗れるようになってうれしかった」
「妹や弟のお世話（優しく）」・・・「妹や弟の成長を感じました」「優しくするとケンカが減った」

※　やりきった自慢を聞かせてくれてありがとう。これからも目標を持って頑張りましょう。